

JCTIC
(マレーシア：コタキナバル)

小林 庸

ネットでWSC (ワールドステイクラブ) が、マレーシアとアメリカでの日本語のボランティアを募集しているのを見て、コタキナバルの JCTIC の日本語学校にお世話になりました。

私は 35 歳のころ仕事でラブアン島 (マレーシア政府直轄地) に 5 カ月間滞在したことがあって、KK (コタキナバル) には何度か行き来しました。

また、5 年前、昔の地を見に行き、さらに KK で現地募集のツアーに参加して、町や周囲の状況をぼんやり知っていましたので、応募しましたが、仕事上で外国人に教育した経験があっても、日本語の教育は未経験です。

そして、年齢も 70 才に差しかかり体力も下降です。日本語に関しネイティブだから、スタッフの方の指導や「みんなの日本語」の副教材の指導法に従えば何とかなるのではとの思いで、2 月 16 日～4 月 20 日まで行かせてもらいました。

担当したのが幸いビギナークラス、2 クラスで、月水金が 19:30～21:00 と火木が 17:50～19:20 の 1 時間半の授業です。前任者の荒井さん (女性) から詳しい引き継ぎと、指導法を教えていただき、また、長期滞在されておられる佐藤さん (男性) からアドバイスを受けました。

スタート時は指導のフローチャートの作成に時間がかかり、また、生徒さんの前で緊張気味でしたが、彼らは日本語に対する強い志があり、日本の大学で学ぶ、日本で働きたい、また、マレーシアにある日本の企業で働きたい、現在日本の関係会社で働いているので、さらに日本語の読み書きを覚えたい。

また、観光地や四季のある日本を体感したい希望もあり、特に北海道が人気のようです。

いろいろ質問されたり、人気グループの「嵐」の大野さん好きとか、アニメのキャラクターが出てきたり、笑いのある楽しい授業を感じるようになりました。

生活面では、宿舎が 10 階 (日本だと 11 階) にあり、3LDK の広い部屋で、2 人の時、1 人の時、最後は 4 人の時もありましたが、快適な生活が送れました。日中は暑いのですが、窓を開けておくと心地好い風が吹き抜けるため、リビングルームではクーラを入れたことはありませんでした。ベッドルームは寝る前に入れ、寝るときは切っていました。朝方 23℃ ぐらいまで下がります。

私の食事は、朝はパンと牛乳と果物、特に果物はたくさんありますが、パパイヤ、マンゴー、モンキーバナナ、メロン等を食べました。3 月後半近くに「北海道パン」、日本人の作るパン屋がオープンしてからは、KK のパンとは比較にならないほど美味しいので、値段が 2～3 倍しましたが良く食べました。

昼夜は外食が中心で、現地のラクサ等や中華、時には KK で美味しいと言われるレストランへ、宿舎のオーナーの氏原さん夫妻及び青島さんに連れて行っただき、違った KK の街を体感すると同時に、気分転換になりました。

また、新しくオープンした日本レストランやサンセットを見ながらベイサイド・レストランでのビールは格別でした。

体力維持のため、朝のサンライズの 6 時から約 1 時間前後を涼しいうちにウォーキングをしていました。宿舎からの朝焼けのキナバル山は、日によって表情が異なるのも楽しみです。北コースと南コースを自分なりに決め、北は、市街地を縦断して貿易港、観光船の発着場、青果市場、魚市場を見ながら通ったり、時には果物を購入することもあります。

また、ベンチで涼をとっている 60 代の方と挨拶を交わす楽しみもありました。南コースは、新しく商業地を建設している KK Times Square の横を通り、Sutera Harbour Resort 入口からゴルフ・コースを見ながらホテルまでのコースは、南国の花々や椰子の木、ソテツやシュロの木の美しい草木が見られて楽しく、時には小川でワニ (Crocodile) やイグアナ、変わった野鳥に会うこともありました。

私は、土曜、日曜はクラスがありませんので、近くのモールへ買い物、宿舎のオーナーが所蔵してある本

が置いてあるので読書、今回は周辺の観光地は既に訪れていましたので、動物園や先住民のカルチャービレッジを訪れました。動物園でオランウータンやアジア象、ニシキヘビ (Python) が印象に残りましたが、約束した迎えの車が来ず、動物園のスタッフに相談したら、園長が出て来て動物園のガードマンにバスの停留場まで送らせてあげるからと、送ってもらいました。暑い中で2時間待っても来ないので途方に暮れていたところを、マレーシア人の優しさに助けられました。

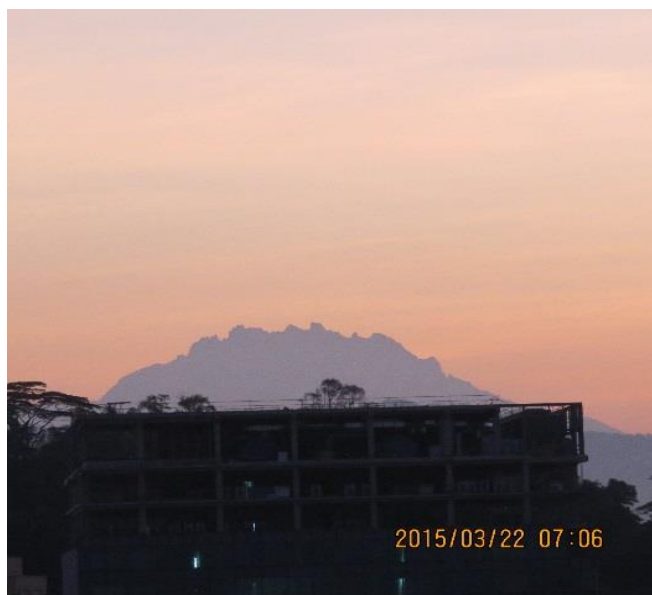
あっという間の2カ月でしたが、自分にとってとても有意義な経験をさせていただきました。街はトロピカルな花や草木でとても美しい。

ただ、今後のマレーシア人の課題は、港や小川、公園へプラやペットボトルを捨てなければ非常に美しいKKになると思います。アジアの若者が日本に関心を持っていることは、将来の日本にとって有意義だと感じました。お世辞でも、生徒や関係者からまた来てくださいと言われましたので、体力や私の取り巻く環境を見て、お役に立ちたいと思っています。

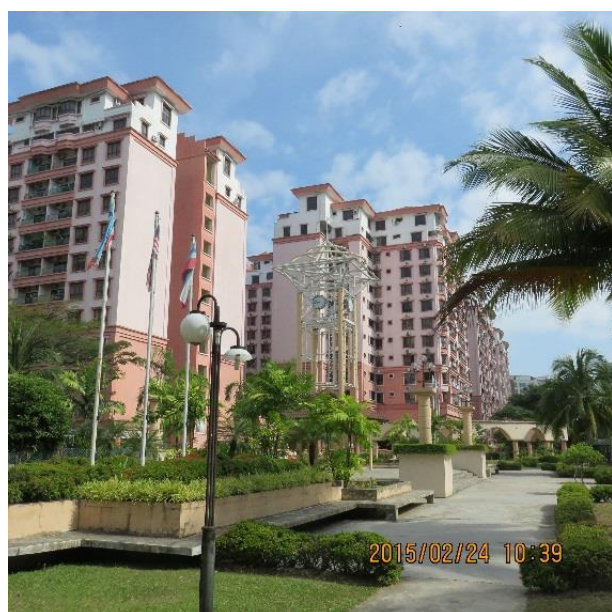
ボランティアの機会を与您いただきありがとうございました。



丘からコタキナバルの街を望む



朝焼けのキナバル山



宿舎のマリナコート界限



ビギナークラスの学生たちと